



東京支会の現況について

東京支会長 宮下忠爾
(昭和36年度・林業科卒)

東京支会の特徴は、第一に「総会・懇親会を53年間続けている」第二に「五百人余の会員と連絡出来ている」第三に「長野県内の高校同窓会関東地区支部・支会の連合会に加盟している」との三点が主です。

支会の運営と会員への連絡の組織作成は、初代の「支会長」を勤められました「故・片桐長治」様（昭和7年農業本科）が大変なご努力をなされて、関東地区の会員をまとめられました。

昭和37年（1962年）に第一回の総会が開催され、総会と懇親会の開催は、その後途切れることなく53年間続けられて来ています。

また、会員との連絡は、年1〜2回全員に「郵便」にて、学校の状況をお知らせしています。

さらに、支会は、長野県の各高校同窓会が関東地方に設けています「支部」・「支会」等で作っております「長野県高等学校同窓会東京連合会」(以下「県連」)に加入しています。県連の各種行事等には、すべて参加で来ています。

県連関係の役職では、4年ごと「常任理事」になっていまして、

一昨年の担当は「文化・渉外」でありましたが、行事等実行で『ゴルフ会設営』等で、2期4回成功裡に勤めました。

また県連は、信州4地区に区分されていますが、東信地区のみでの活動にも積極的に参加しております。

この総会では各校の同窓会の事情等を発表する場がありまして、ある学校は同窓生が、四千人を超えると言ひ、他の学校も同じように同窓生の「人数」をあげていました。

しかし、どこも個別には連絡を取っていないし、また「とれない」というのが現状の様です。

連絡は「ネット」だけで、相手側から来たときだけ返答する、というような話が大半でした。

蓼科は小さい学校で、同窓会の会員も五百人余で一番少ないと思ひますが、年二回は全員に「郵便」にて連絡し、半数の会員は返事が来て、その半数は総会出席か賛助金を入金して頂いて

います」と言ひますと、他の学校からうらやましがられます。そして、「どうしてそんなことが出来るのか？」と言われまます。

「本部からの助成金と会員からの「賛助金」であり仕組みは郵

便局利用です」と伝えますが、他校は、なぜ送金してくるのか不思議がります。

総会以外の事項でも、県連・東信連合会の会合・行事等には、多くの会員の皆様に参加して頂いております。長野県高等学校同窓会連合会の活動では「蓼科高校」の存在有りを、強く認識してもらっています。

私は、各校から、尊敬の目で見られるこんな良い組織を任せ頂いております事に、誇りと責任を強く感じるとともに、皆様方のご協力を謹んで深く感謝いたしております。

以上、概略で誠に簡単ではありますが、掲載の機会のお礼を申し上げます。報告とさせて頂きます。

これからも東京支会のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



同窓会からのお願い

◎活動協力金のお願い

同窓会の運営経費は、新入生の入会金で賄われています。会則第15条では、本会の経費に充てる財源は、入会金、寄付金、活動協力金となっております。

本会では、会報第一号の発行を契機として、一口千円の『活動協力金』をお願いする事と致しました。賛同いただける同窓会員は、同封の振込用紙によりお振込み下さいませ。う、お願い申し上げます。

◎同窓会総会

平成28年度の同窓会の総会は、ゴルフ・マレットの大会に併せ、平成28年5月14日（土）に開催する方向で検討しております。支会会長及び実行委員会を経て正式決定となりますが、会員の皆様におかれましては、予め予定に入れている頂ければ、幸いです。

編集後記

この度、同窓会長の両角正芳さんの「同窓会報を作成し、同窓生の皆様方に母校の同窓会活動等をお知らせして行きたい」との強い思いが実り、創刊号の発行に無事たどり着くことが出来ました。

思えば、本校において、この様な会報は一度も発行されておらず、百十五年余の歴史の中で初めての事であります。

青春時代を過ごした母校蓼科高校は、今また少子化の中で高校再編の波に襲われようとしております。実は、学校廃校の危機は今までに何度かありました。

大正12年の郡制廃止、昭和初期の大恐慌。そして平成17年の田中県政における学校再編…。

その都度、地域の皆さん、卒業生の方々の『学校存続』の声と努力により、県下九番目の長い歴史を今日まで刻んで来ております。

この会報が、同窓生の皆様方の団結の力となり、母校の発展継続の連絡網となります事を一祈念も申しあげますと共に、同窓会へのご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

【同窓会事務局】

電話:0267-56-1015
FAX:0267-51-3006
E-mail:
Tateshina-hs
@pref.nagano.lg.jp

▼表紙の「蓼科同窓会報」文字

会報名の文字につきましては、第三十一代学校長 長田芳子先生に書いて頂きました。